

熊本大学附属図書館架蔵 特殊文庫の紹介(三) 米田家文書について

松本 寿三郎

本館に架蔵する米田家文書は、熊本藩の第二家老であった米田家に伝来した古文書の一部である。米田家は初代求政から細川家に仕え、松井・有吉家とともに代々家老を勤めたいわゆる世襲三家老のひとつである。小倉時代一時浪人になったが、元和九年帰参して家老となり熊本では1万5000石を給された。熊本城内二の丸に上屋敷、坪井に下屋敷（現熊本市立高校敷地）があった。旧藩時代には米田家は家臣約300人を召し抱え、知行地として合志・阿蘇南郷を中心に34村を拝領、185町を開発している。

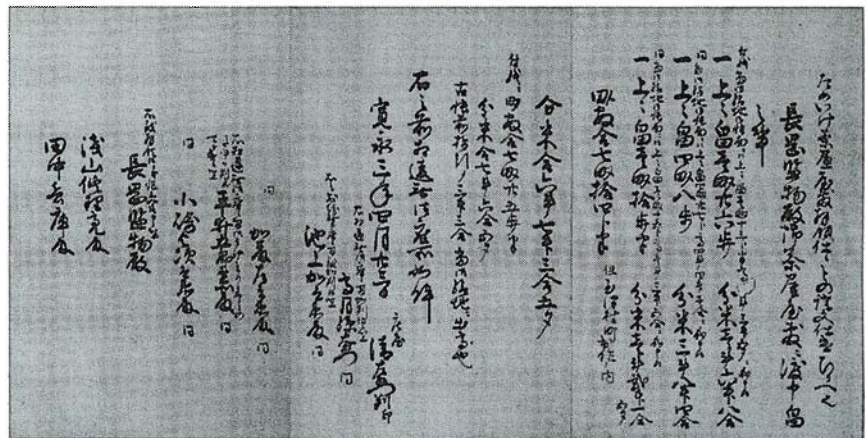
米田家は明治初年に米田虎雄が侍従となって東京に移った。おそらく米田家には一族の関係史料のほかに、上記の家臣・知行地・開発関係の史料が残されていたにちがいないが、戦後の熊本県史編纂のさいにも米田家文書は分家に伝承されたと思われるごく一部が収録されているのみで、米田本家の文書は残念ながら散逸してしまったようである。

ここに紹介する米田家文書は、平成8年度文部省の人文系特別図書購入費の交付を受けて大型コレクションとして購入したものである。実は本学では平成7年度にも大型コレクション購入費の交付を受けており、二年連続での交付は難しいと思われたのであったが、本学附属図書館には熊本藩藩政史料たる永青文庫細川家文書を架蔵（寄託）しており、さらに第一家老松井家文書を所蔵していること、これに第二家老米田家文書が加われば藩政史研究はさらに充実したものになるであろうこと、実際にこのたび購入した米田家文書は細川家文書・松井家文書の空白部分を補うものであることを訴えて史学科の了解を得、文学部でも第一位にあげて予算の申請をしたのであったが、本部事務局・附属図書館長をはじめ、学内各方面からの支持によって購入費892万円の交付を受けたものである。

米田家文書は大まかには、1) 米家旧記抄、2) 米田家関係記録、3) 幕末国防建議書、4) 書簡に大別

できる。

1) 米家旧記抄96冊、米田家記録など19冊、寛永元年間から延宝七年にいたる米田家の記録である。文書を中心に編纂したものである。松井家文書の解説でも述べたが、この時期の記録は永青文庫にはあまり豊富ではない、松井家文書ではこの時期のものは、「松井文庫」に残されているが、いまだ公開されていない、というわけで、細川家ないし小倉・熊本藩の成立にかかわる肝心な時期であるのに、史料的には希薄な



米家旧記抄のうち寛永三年拝領のためいけ茶屋敷明細（小倉時代）

時代である。抄出ながらこの時期の文書は貴重である。

2) 米田家関係記録 11冊 米田家については家系・系譜・先祖付の類いは永青文庫にもあるが、前述のように関係史料に乏しいのが難点である。この中には有吉家の先祖以来覚書も含まれており、ほかに第三家老有吉家の文書が乏しいだけに、空白を埋めるものといえる。

3) 幕末国防建議書24冊、幕末米田是容（これかた）は嘉永6年（1853）黒船来航に際して浦賀警備の熊本藩総帥として出陣した。このときに家臣等が提出した国防に対する建議書の類である。

4) 書簡 480通 主として文化・文政・天保期之書簡である。この中にも海防・相州警備や大船建造に関する書簡もあるが、車えびや菓子のお礼などもあり、種々の内容を含んでいる。

（まつもと すみお 文学部教授 国史学）



Kumamoto University Library Bulletin, No.19, Feb. 1998

● 図書館と私

熊本大学附属図書館架蔵 特殊文庫の紹介(≡)

● 米田家文書について

● 総合目録データベース実務研修会に参加して

● 平成9年度日本薬学図書館協議会 研究集会当番館を担当して



米田家文書(H. 8 大型コレクション)の一部 米家旧記抄(96冊)など